

8-3	
主題	「介護安全週間」の取り組みによる 安全意識の向上に伴う 事故抑止効果に関する研究
副題	「安全は全てに優先する」からの報告

キーワード1: 介護事故	キーワード2: 安全週間	研究期間	24 ヶ月
--------------	--------------	------	-------

法人名	社会福祉法人 友愛十字会		
事業所名	特別養護老人ホーム 砧ホーム		
発表者: 鈴木 健太	アドバイザー: なし		
共同研究者: 陸田 光昭、山口 公司			

電話	03 - 3416 - 3164	FAX	03 - 3416 - 0281
----	------------------	-----	------------------

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	砧ホームは、平成 4 年に東京都世田谷区砧（きぬた）に開設した、入所定員 60 名、短期入所 4 名の特養です。従来型施設ですが、グループケアを提供しています。介護職をメイン職種、他職種をサポート職種としたチーム連携を重視し、自立支援ケアとして「オムツ 0（ゼロ）」や外出支援に取り組んでいます。
------------------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

認知症の周辺症状に寄り添うケアから、症状を改善するケアへの転換を図るべく、水分・食事・運動・排泄の4つの営みを整えることで生活活性を向上し自立性の回復を目指す自立支援介護理論を平成 21 年 4 月に取り入れ、オムツを使用しなくてもトイレでの排泄を叶える所謂「オムツ 0」を5ヵ年計画にて段階的に達成しようと、学びと実践を繰り返してきた。

自立支援ケアの推進により、期待通りにトイレでの排泄（オムツ外し）が叶いQOLの向上に成果が上がっていたが、一方で同時に介護事故も増加していった。

「オムツ 0」達成まであと 1 年となった平成 25 年 4 月、利用者をベッドから車椅子へ移乗介助中に、転落による骨折事故を生じた。この事故により、ご家族との信頼関係を失い、当該利用者のトイレ誘導は宙に浮いて全体での「オムツ 0」の達成に大きな影を落とした。

離床活動の増加と事故の増加。利用者の生活活性が向上する反面、事故の増加が大きな課題となっていた。

《2. 研究の目的ならびに仮説》

この重大な介護事故を受けて提言した介護係成長戦略では、その3つ戦略の柱の第一に『絶対安全』を掲げ、過ちを繰り返さない決意を顕にした。『絶対安全』の戦略のもと、介護事故抑止を目的に展開したのが『介護安全週間』である。『介護安全週間』の取り組みにより、職員の安全意識が向上することで、介護事故が抑止されることを仮説とし、その有効性を検証する。

《3. 具体的な取り組みの内容》

『介護安全週間』は、初回の実施を平成 25 年 7 月としたが、実施月の設定は、対外的に『絶対安全』の決意を表明し内部的にも襟を正すことを意図し、行事で来園者の多い 7 月

と10月、1月（年始）と4月（年度初め）として、3ヵ月毎に年4回実施することとした。また、実施期間は各回7日間とした。

さらに、実施期間の1週間前から施設内にポスターを複数掲示して取り組みを内外にアピールすること、各回初日の朝の申し送りにて『安全は全てに優先する』としたスローガンを唱和することで取り組みの開始を意識付け連帯感を醸成することを決め実施した。

職員の安全意識は、これを11段階に数値化し、初回の実施から1年間について毎月アンケートにて集計した。

事故抑止の考え方としては、単にヒヤリ・ハットを減らすことでその先の事故を抑えるということではなく、寧ろヒヤリ・ハットの感性を高める（気付き報告する）ことによって、結果として事故を抑えることを目指した。

なお、事故の定義としては、受診を伴う外傷、誤薬、褥瘡、貴金属・貴重品の紛失、通報を伴う離脱、集団感染、苦情を対象とし、ヒヤリ・ハットは職員がヒヤリと感じた事象や受診を伴わない外傷等として、これまでと一貫した条件の下で取り扱った。

《4. 取り組みの結果》

『介護安全週間』の開始から初めの1年間は「オムツ0」達成率を低下させることなく、前年（同時期の1年間）と比べて約31%の介護事故を抑止することができた。

その後も取り組みの継続により、平成24年度に45件発生した介護事故は、平成25年度は40件、平成26年度は17件と漸減した。一方、平成24年度に269件報告が上がったヒヤリ・ハットは、平成25年度は508件、平成26年度は753件と漸増した。

アンケートの結果からは、『介護安全週間』の実施によって職員の安全意識が向上すること、実施から時間が経過すると安全意識は徐々に低下していくが、定期的（3ヵ月毎）に実施することで向上と低下を繰り返しながら

も、少しずつ安全意識が向上していくことが確認できた。

《5. 考察、まとめ》

『介護安全週間』を定期的（3ヵ月毎）に実施することは、職員の安全意識の向上につながり、介護事故の抑止に有効であることが分かった。但し、定期的な実施におけるより効果的な間隔については、模索・検証の余地があると考ええる。

また、『介護安全週間』の取り組みの前後で、ヒヤリ・ハット件数は約2.8倍に増加したが、一方で介護事故件数はその逆数相当倍（約2.6分の1）に減少したことから、ヒヤリ・ハットの感性を高めることを手法としたことも、事故抑止に対し相関的・相乗的かつ効果的に作用したものと推察する。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）および職員に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- 1) 金 美辰 堀米 史一（2012.03）「高齢者福祉施設における利用者の事故要因に関する比較研究」大妻女子大学人間関係学部紀要（1345-496X）13巻 Page177-183
- 2) 美阪由紀子（2010.03）「事故報告書が伝えてくれる介護事故の実態と課題の一考察」北星学園大学大学院論集（1884-5428）1号 Page55-70

《8. 提案と発信》

安全に絶対はないが、安全を諦めずに追い求める態度が専門職には必要である。『介護安全週間』の取り組みや発想が、他施設の活性化の一助となれば幸いである。